Ⅳ-204　低レベル生活圏の評価について

福井工業高等専門学校　正員　武井　幸久

1．はじめに

新全総以後、段階的な生活圏域を設定し、定住圏として階層的に整備することが目標に掲げられた。低成長期を迎えると居住者意識も量から質へと変化し、良好な生活の場の確保が社会的にも強く要請される。地区計画はその傾向をうけて制度化され、地区の開発・改善に際しても歩車共存道路等の手法が整備されてきた。人口流動が比較的安定した現在、地区は高齢化・レクレーション需要への対応、教育的意味など総合的な生活の場としての重要性を強めており、現状の評価を基にその適合度をより一層高める必要がある。

本研究は、以上の点を踏まえ、都市の低レベル生活圏について検討するものであり、本年は世帯形態・住宅規模・近隣形態・環境評価・居住意志について四つの既成市街地を対象に調査・分析し、居住者意識と地区の在り方について若干の提起を行なう。

2．都市における地区の捉え方

まず、岡[1]は生物学的な閉鎖の概念を基に都市を八重の隔離機能を持つ有機的圏域と定義する。幹線街路と「都市の有限なる切片」が都市の要素であり、切片は、さらに「住居クラスター」と細街路等のインフラ空間から構成される（図.1）。これは既にレベル構制として提起したものと同様の概念で、クラスターを両側町とみなす点でも共通した立場に立つ。

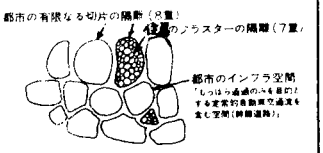

図1　都市の有限なる切片

次に、地区の在り方に関してはK.リンチ[2]の性能規範（活力性　感覚　適合　アクセス　管理）と副規範（効率　公正）が有効な概念となり得る。地区を捉えるということは、有限なる切片を五つの尺度によって再検討し、より優れた形として実現する方途をさぐることである。しかし、現段階ではそうした具体的な地区を対象化することは困難である。そこで、以下の調査では地区として一応小学校区を考えることにする。

3．地区調査

調査は、小学校の協力を得て、３・６年生を対象に学童は直接、父兄・祖父母は学童を通じて配布・回収するアンケート形式とした。ライフサイクルの特定階層を対象とする点で制約は受ける。だが、地区に関するイメージ・意識は共通性をもち、学童がそれを学び解釈・評価を介して自らのイメージ・意識を調整する点を重視する意味でこの方法を取ってきた。

今回の調査地区は、福井県内の福井（データ：学童221,父兄 390, 祖父母 132)・大野（183,347,143)・武生(228,413,66)の各市と松岡町(208,375,99)の中心街で、世帯や近隣の現状と将来、環境要因（30～40）に関する５段階評価などからなる。

結果については、表１が世帯形態、表２が近隣形態を示し、表３は居住環境の総合評価と永住意志を示すものである。

表．1　父兄の意識における世帯形態（現状％（将来％））

	旭小	有終西小	武生東小	松岡小
三世代同居	51（25）	64（42）	41（31）	45（39）
近接居住	6（29）	10（25）	14（36）	14（23）
核家族	43（18）	26（10）	35（23）	31（16）
その他	0（28）	0（23）	0（10）	0（22）

表．2　父兄の意識における近隣形態（現状％（将来％））

	旭小	有終西小	武生東小	松岡小
両側町	65（43）	70（55）	67（51）	65（46）
片側町	17（11）	13（ 4）	24（16）	26（16）
街区	18（22）	17（13）	9（16）	9（11）
その他	0（24）	0（28）	0（17）	0（26）

表．3　居住環境の総合評価及び永住意識（父兄％（学童％））

		旭小	有終西小	武生東小	松岡小
総合評価	良い	43（48）	44（63）	35（60）	30（55）
	普通	48（40）	47（30）	59（31）	60（40）
	悪い	9（12）	9（ 7）	6（ 9）	10（ 5）
永住意志	あり	50（34）	62（38）	54（43）	67（53）
	不明	24（49）	20（56）	22（37）	21（39）
	なし	26（17）	18（ 6）	24（20）	12（ 8）

４　結果と考察

４．１　地区の居住形態と評価意識

まず、各地区の持家率は８割、住宅規模も 100m以上が６割を越える。表１では、同居と近接（徒歩10分以内）を合わせると約６割が、将来に渡って三世代の地区内共存を考えている。学童ではこの比率が７割以上である。高齢化社会に向けた地区整備の必要性は高いと言える。次に、受け皿の近隣形態（表２）をみると、両側町が65%以上を占め、その維持志向も強い。そして表３からは、現状の総合評価を悪いと判断する者は１割程度。移転志向と比べた場合、永住意志をもつ父兄は過半数で、学童でもその比率は低くない。そこで、今度は評価や意志に関与する要因を見いだすため、評価（Ａ）と意志（Ｂ）を外的基準として数量化Ⅱ類により分析した。表４・５は父兄・学童について、偏相関係数値に応じ10位までの要因を並べたものである（Ｂでは関連性をみるため総合評価をも要因に加えた）。相関比は0.33～0.61である。

４．２　環境要因と意識カルテについて

ここでは、表４．５を地区の診断と対応策の為の意識カルテとして検討を加える。そして、先述の規範で感覚は認知マップと関連するものであり、残りの四つを要因と関連付けることにする。例えば、活力性は日照、静かさ、空気・川・緑の状態、安全性。適合は便利さ、容易さ。アクセスは近さ。管理は用心、避難所雪対策、協力性、家の建込、交通状況等と対応する。

表に眼を移すと、まずＡ、Ｂに差異のあることに気がつく。単に評価を基に改善することは効果的でなくＡＢ双方からの検討が必要であるようだ。そうすると父兄では車への適合が強く現われる。さらに興味深いのは、近所との関係が親子で共通して現われる点で、旭小を除く地区では管理要因も高順位に在る。活力性、特に安全性が脅かされると葛藤を生み（プライバシー要因が一つの目安）、適合とアクセス重視の意識に行き着く。この事はＢについての要因をみれば、各地区とも今後の現象して予想されない事ではない。殊に学童（祖父母）のＡ，Ｂにその傾向が強い。弱者から問題は始まるようだ。昨年の福井市郊外の検討結果が示すように、移転で居住問題は解決しない[3]。しかも、居住環境はどうあるべきかを日々体験している学童が次代の地区の主体となる。車への過度の適合を排し、居住環境を教育・管理問題として再度見直す時期が来ているのではないだろうか。ここに示したⅡ類に基づく概念は、その為の診断法として活用できる筈である。

５　まとめと提起

以上、Ⅱ類の結果から偏相関係数の高順位要因をカルテとして活用する方法を提起した。最後に、両側町に基づく地区形態について簡単な提起を行う。それは、従来の車道に面した住宅を反転し、歩道を内側に取り込む形で両側町を形成するもので、その連結により歩行圏を構成できる。開発地ではこれをそのまま生かし、既成市街では既存の両側町をネットとして調整して管理問題の形で提起する方法である。そのためには、協力性のある地区で期間を区切って様々な手法を実験し、その成果を他地区への提起に用いることが必要である。

今後はカルテの有効性を計る為にデータを増やすことと具体的な形態についての検討を進めたい。

（参考文献）1)岡　秀隆「都市の全体像」鹿島出版会
2)Ｋ．リンチ「居住環境の計画」彰国社　3)武井幸久
低レベル生活圏の評価に関する考察 '86年講Ⅳ

表．４　偏相関係数に関する高順位の要因（父兄）
Ａ．外的基準を総合評価とした場合

	旭小	有終西小	武生東小	松岡小
1	日当たりの良さ	公共施設の近さ	駐車施設	周りの道路の便利さ
2	プライバシー	近所の協力性	近所付き合いのよさ	近所付き合いのよさ
3	静かさ	近所付き合いのよさ	家前の車の入り易さ	家の建込み具合
4	バス停の近さ	家の建込み具合	空気のきれいさ	子供の遊び場の広さ
5	家前の車の入り易さ	通学の安全	幹線道路の近さ	静かさ
6	子供の遊び場の近さ	大型店・商店街近さ	ゴミの回収	ゴミの回収
7	空気のきれいさ	日常買物の便利さ	避難場所の整備	日常買物の便利さ
8	家の建込み具合	緑の豊富さ	雪に対する備え	避難場所の整備
9	日常買物の便利さ	用心の良さ	小学校の近さ	子供の遊び場の安全
10	駐車施設	プライバシー	静かさ	近くの川のきれいさ

Ｂ．外的基準を永住意志とした場合

1	大型店・商店街近さ	家前の車の入り易さ	子供の遊び場の近さ	近所の協力性
2	小学校の近さ	地区への愛着	プライバシー	鉄道・バス利用の便
3	鉄道・バス利用の便	ゴミの回収	近所の協力性	ゴミの回収
4	空気のきれいさ	鉄道・バス利用の便	日当たりの良さ	避難場所の整備
5	公園利用のし易さ	日当たりの良さ	近隣形態	雪寄形態
6	周りの道路の安全	駐車施設	総合評価	近所付き合いの良さ
7	子供の遊び場の広さ	バス停の近さ	公共施設の近さ	大型店・商店街近さ
8	中心街への交通の便	公園利用のし易さ	駐車施設	子供の遊び場の広さ
9	近くの川のきれいさ	家の建込み具合	公園利用のし易さ	地区への愛着
10	近所付き合いの良さ	幹線道路への近さ	バス停の近さ	公園利用のし易さ

表．５　偏相関係数に関する高順位の要因（学童）
Ａ．外的基準を総合評価とした場合

	旭小	有終西小	武生東小	松岡小
1	駅の近さ	日常買物の便利さ	近くの川のきれいさ	地区の行事
2	公園利用のし易さ	雪に対する備え	近所の協力性	近所の協力性
3	空気のきれいさ	公園利用のし易さ	周辺道路の交通状況	家の建込み具合
4	バス停の近さ	空気のきれいさ	小学校の近さ	通学の安全
5	周りの道路の安全	日当たりの良さ	周りの道路の安全	ゴミの回収
6	大型店・商店街近さ	近所付き合いの良さ	周りの道路の便利さ	子供の遊び場の近さ
7	公共施設の近さ	バス停の近さ	家の建込み具合	近所付き合いの良さ
8	通学の安全	周辺道路の交通状況	雪に対する備え	家前の車の入り易さ
9	プライバシー	子供の遊び場の近さ	プライバシー	近くの川のきれいさ
10	日当たりの良さ	用心の良さ	避難場所の整備	鉄道・バス利用の便

Ｂ．外的基準を永住意志とした場合

1	総合評価	日当たりの良さ	子供の遊び場の広さ	地区の行事
2	緑の豊富さ	周りの道路の広さ	日当たりの良さ	雪に対する備え
3	家前の車の入り易さ	避難場所の整備	総合評価	バス停の近さ
4	バス停の近さ	病院の近さ	周りの道路の安全	鉄道・バス利用の便
5	子供の遊び場の広さ	用心の良さ	用心の良さ	家前の車の入り易さ
6	空気のきれいさ	緑の豊富さ	日常買物の便利さ	家の建込み具合
7	小学校の近さ	周りの道路の安全	近所の協力性	近くの川のきれいさ
8	公共施設の近さ	総合評価	公園利用のし易さ	近所の協力性
9	近くの川のきれいさ	通学の安全	ゴミの回収	プライバシー
10	鉄道・バス利用の便	公園利用のし易さ	プライバシー	静かさ